

【つ】 続けることのむずかしさ 風化させてはいけない経験

災害を経験した人が次世代へ、災害を伝えていくことは大変よい大事なことです。東日本大震災後も伝承館や遺跡を核にして語り部の方が様々な当時の話をしてくれます。

これからも起きるであろう自然災害に対して、どう行動すべきなのか、何ができるのかを学ぶものとなっています。しかし、時間が経過すると同時に、被害地は復旧・復興されてしまって被害を受けた人々でさえ、災害の恐ろしさを忘れてしまっています。よく、風化といますが、風化させてはいけないのが災害だと思います。今見る景色は当時からすれば想像できませんが、何かの機会に当時の景色を思い出すことができます。次世代に同じようなことを経験させたくないという気持ちがなければ、いま生きる世代として無責任になります。

【ね】 ネズミが塩を引く、関心を持続させることこそ防災力

小さなことでも数を重ねることで大きなものが得られるということわざですが、実は防災もそれに相当します。一時の防災訓練だけで防災力が身につくわけではありません。それは防災自体が様々な面を持っていることと、常に災害が発生するわけでもないのに、臨場感をイメージするのが難しいこと、ややもすると、来たときは来たとき、どうにかなるくらいに考えているために、本気になれないこともあります。しかし、自然災害は必ず、いつかはきますので、安閑としてはいられないわけで、何か防災に関する機会があったり、どこかで災害が発生した、というような報道のたびに、自分の暮らす地域ではどうかな、ということを考えることで関心を持つことも大切なことです。防災は決まったやり方はなく、地域の特性や経験に合わせて備えていく、ということ以外に方法はないと思います。それ故に、住民が地域の情報や事情を共有しながら、少しずつ積み重ねていくということが、共助の大きな柱になると思います。

【な】 なくしたい想定外、次の行動をするためにも

災害が発生すると、よく想定外だった、いままで災害を経験していない、知らなかったということを多く聞きます。もっとも、自然災害は突然ですし、そう頻繁にあるものでもありませんが、遭遇すれば大きな被害を受けることとなります。最近、被害が進化し多様化してきていますので、これまで以上の想像を超えることが起きています。災害への対応は避難が最重要ですが、突然なこととなればどうすればよいのか、すぐにはそのすべが出てきません。しかし、暮らしているところがどのような環境にあって、どのような災害が起きやすいのか、ということ事前に理解しておくことで、発生時に発信される情報への対応が適切にできますし、避難のタイミングや避難の方法などを落ち着いて選択することができます。ぜひ、ハザードマップなどを活用して関心を高めておきたいものです。